

第5学年 道徳科指導案

場 所：5年1組教室

授業者：●●●●

I 主題構成表

主題名 「思いやりの心」 教材名「バスと赤ちゃん」

<p>■内容項目 B—(7) 親切・思いやり 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。</p>	<p>■内容項目から見た児童の実態 学級や学年内で困っている仲間へ声をかけたり、手を差し伸べたりすることができる姿から、多くの児童が思いやりの心を持っていることが分かる。親切にすること、されることの経験から、その行為のよさやその行為が生む心地よさは知っているが、誰に対しても思いやりの気持ちをもって自ら親切にできる児童は少ない。</p> <p>■要因 特定の仲間関係には、親切な行動をすることができるが、関係が深くない相手に対しては、関わろうとしなかったり、思いはあっても躊躇してしまったりすることがある。また、様々な人と関わる経験が少ないことも要因の一つと考えられる。</p>	<p>■教材の分析 赤ちゃんを連れてバスに乗っていた母親は、満員のバスの中で泣き出した赤ちゃんが他の乗客に迷惑をかけると感じ、途中下車しようとする。それに気付いた運転手は、他の乗客にアナウンスすることで、母親は目的地までバスに乗車することができた。</p> <p>運転手がアナウンスするに至った背景には、車内の様々な状況があり、葛藤の中での行動だということや、その行為の裏にある思いにも気付かせたい。</p> <p>また、運転手の行動が、困っていた母親だけでなく、同乗していた乗客の「助けたい。」という思いも救うことができたということや、関係の深い相手でなくても、相手のことを親身に考えて行動することの大切さも考えさせたい。</p>
<p>■ねらい 「一緒に乗せてってください。」とアナウンスをした運転手さんの気持ちを考える活動を通して、困っている人だけでなく、様々な相手の立場や状況を考えて行動した運転手さんの思いやりの心に気付き、相手の置かれている状況や心情を深く考えて行動しようとする心情を育てる。</p>		
<p>■研究内容との関わり 研究内容1—(1) 課題意識をもった、主体的な学びを生み出すための導入の工夫 ・魅力ある教材の提示 研究内容1—(2) 自己を見つめ、多面的・多角的に考えるための展開の工夫 ・立場を明確にした議論の場の位置付け 研究内容1—(3) 自己を見つめ、考えを深める終末の工夫 ・本時学んだ価値について振り返り、よりよい生き方について考える場の位置付け</p>	<p>■基本発問(◎中心発問) ○運転手さんは、お母さんの「待ってください。おります。」を聞いて、どう思ったのでしょうか。 ◎どうして運転手さんは、アナウンスをしたのだろう。 ○運転手さんのすてきなところは、どんなところでしょう。</p>	

2 本時の展開

	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	<p>1. 教材に対する興味をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスの中には、多くの人が乗車していて、人の熱気と暖房で不快な環境であり、泣き叫ぶ赤ちゃんとお母さんがいること。 ・そんな中で運転をしている運転手の気持ちを考えていくこと。 	<p>研究内容1-(1) 課題意識をもった、主体的な学びを生み出すための導入の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身を物語の中に投影しながら考えられるように、主人公の置かれている状況を丁寧に押さえていくことで教材に引き込む。
展開前段	<p>2. 教材「バスと赤ちゃん」の範読を聞いて話し合う。</p> <p>○運転手さんは、お母さんの「待ってください。おります。」を聞いて、どう思ったのでしょうか。</p> <p>お母さんのことを思う気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当は降りる場所じゃないのに、みんなのことを考えて降りようとしているのではないか。 ・ここで降りるのは、お母さんと赤ちゃんがかわいそう。 <p>迷いがある気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言った方がいいとは分かっているけれど、実際は分からない。 ・どちらを優先したらいいか分からない。 ・他のお客さんにどう思われるか分からない。(自分のこと) <p>他のお客さんのことを思う気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の人の迷惑になるから降りてもらった方がいいかもしれない。(他のお客さんのこと) ・アナウンスまでする必要はない。 <p>◎どうして運転手さんは、アナウンスをしたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり困っている人をどうにかしたいという思いがあった。 ・自分のことより母親を何とかしたいという思いがあった。 ・他のお客さんにも伝える必要があった。 ・肩身の狭い思いをしているお母さんの気持ちを考えると、そのことを他の乗客にも知らせることで、より安心できると思った。 ・「助けたい。」という他のお客さんの思いも救いたかった。 	<p>研究内容1-(2) 自己を見つめ、多面的・多角的に考えるための展開の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、補助発問の「自分だったら、すんなり言うことができるかな。」を問い、自分の立場を運転手に置き換えて考え、運転手の行動の背景に、様々な思いがあることに気付かせたい。 ・児童の意見を分かりやすく板書に位置付け、多面的な思いを感じられるようにする。 ・「どうして運転手さんがアナウンスをしたのか。」と問うことで、葛藤がある中でも運転手が行動に移すことができた強い思いについて考えさせる。 ・補助発問の「こっそり声をかけるだけでも良かったのでは？」と問うことで、「アナウンスをする」という行為が、より深く母親の気持ちや立場を考慮して行ったということに気付かせたい。さらに、それによって他の乗客の思いやりの気持ちを起こさせたり、気付かせたりしたきっかけになったことを押さえる。
展開後段	<p>3. 価値を共有する。</p> <p>○運転手さんのすてきなところは、どんなところでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々な立場や状況を考えた中で、相手にとってよいことをしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な立場や状況を考慮した中での運転手さんの「思いやりの心」の価値に迫ることで、価値理解を深める。
終末	<p>4. 振り返りを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転手さんは、お母さんだけでなく他の乗客のことも考えた上でアナウンスをした。簡単にできるようなことではないと思う。 ・〇〇さんの意見を聞いて、運転手さんが迷った気持ちがあったことに気が付きました。それでもアナウンスをした運転手さんのすごさが分かりました。 	<p>研究内容1-(3) 自己を見つめ、考えを深める終末の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業で分かった大切なこと ・仲間の意見を聞いて、考えたこと